

各 位

三菱UFJ信託銀行株式会社
三菱UFJ投信株式会社

本邦初、確定拠出年金向け運用商品のビジネスモデル特許取得について

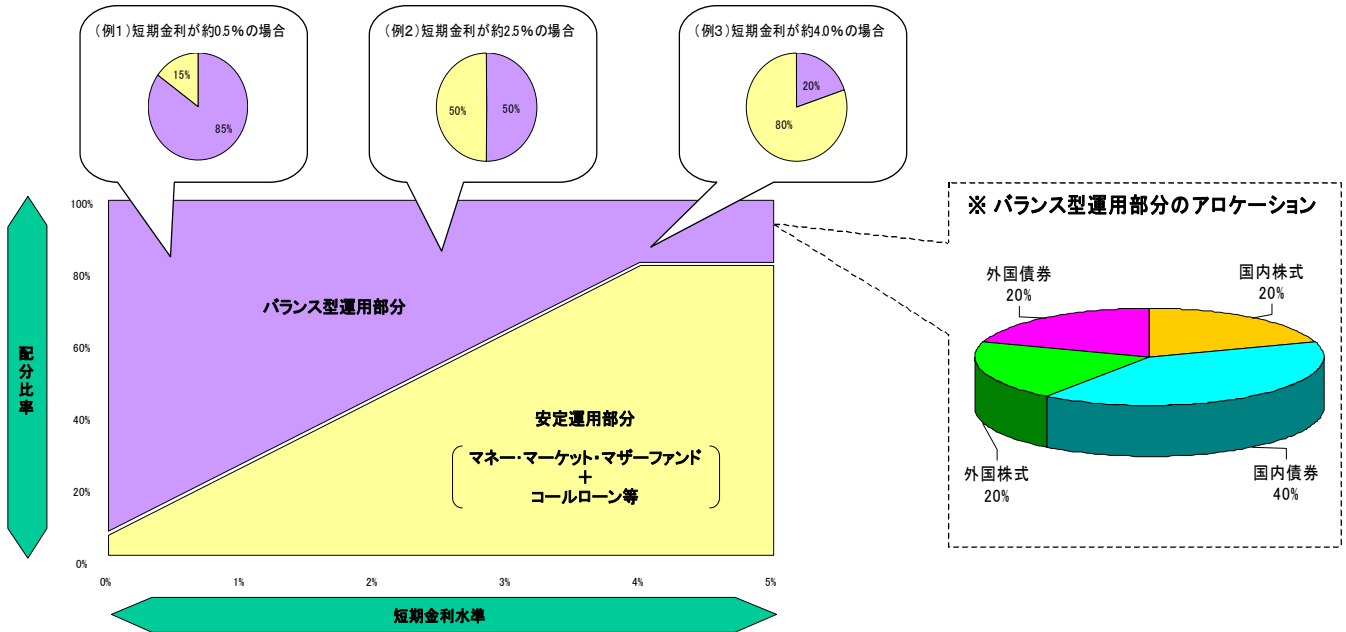
三菱UFJ信託銀行株式会社(取締役社長 岡内欣也)と三菱UFJ投信株式会社(取締役社長 後藤俊夫)が共同開発し、平成19年8月販売開始した企業型確定拠出年金専用の運用商品「三菱UFJ DC 金利連動アロケーション型バランスファンド(愛称: **DC オートマくん**)」が、今般ビジネスモデル特許を取得しましたのでお知らせ致します。

特許庁登録内容: 特許第 4637879 号(登録日 平成 22 年 12 月 3 日)、発明の名称「資産運用装置」

1. 商品概要

「**DCオートマくん**」は、わが国の確定拠出年金(Defined Contribution plan 以下DC)制度において、国内で初めて「国内短期金利水準の変動に応じて、バランス型運用部分と安定運用部分への配分比率を自動的に変動させるシステム」により、ご加入員の安定収益の確保をめざす商品です。

【イメージ図】(詳細裏面別紙)



2. 商品化およびビジネスモデル特許取得の背景

わが国の DC 制度は発足後 9 年が経過し着実に拡大しています。こうした中、運用実績と DC 制度上の想定利回り(注)(全国平均 2.16%)が乖離し当初想定受取り目標額に到達しない懸念が出てきておりますが、この背景としては、多くのご加入員において制度ご加入時以降、想定利回りを意識した適切な資産配分の見直しが行われず、現在の低金利下でご加入員の全体運用資産の 6 割超が定期預金など元本確保型商品であることが運用面の課題のひとつとして挙げられます。

こうした運用面の課題に対して、「**DC オートマくん**」は、商品設計からアプローチした DC 専用バランス型投資信託であり、今般のビジネスモデル特許取得により本商品の更なる認知度向上と普及を図るものです。(注) 想定利回り…「この利回りで運用出来れば、確定拠出年金制度設計時に予定した目標金額を最終的に受取ることが出来る」という運用の目安。

三菱UFJ信託銀行と三菱UFJ投信では、今後も両社の機能を活かした商品・サービスをご提供し、年金・投信分野におけるお客さまの幅広いニーズにお応えしてまいります。

以上

【「三菱UFJ DC 金利連動アロケーション型バランスファンド（愛称：DCオートマくん）」の概要】

◆ファンドの特色

- ▶ 主として、三菱UFJ 日本株アクティブマザーファンド、日本債券マザーファンド、外国株式マザーファンド、三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンドへの投資を通じて国内株式、国内債券、外国株式、外国債券に分散投資を行うバランス型運用部分と、マネー・マーケット・マザーファンドへの投資を通じてわが国の短期公社債に投資を行う安定運用部分に、それぞれ投資を行います。
- ▶ バランス型運用部分における各資産への配分比率は、国内株式20%程度、国内債券40%程度、外国株式20%程度、外国債券20%程度とすることを基本とします。
- ▶ わが国の短期金利水準の変動に応じて、バランス型運用部分と安定運用部分への配分比率を変動させるものとし、当該短期金利水準の上昇に伴い安定運用部分への配分比率を引き上げ、当該短期金利水準の低下に伴い安定運用部分への配分比率を引き下げます。なお、安定運用部分への配分比率は以下の範囲内とします。

安定運用部分への配分比率	
下限	短期金利水準が0%のとき、純資産総額に対して5%程度
上限	短期金利水準が4%以上のとき、純資産総額に対して80%程度

- ▶ 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。
- ▶ マザーファンドの組入比率は高位を維持することを基本とします。

◆当ファンドの主なリスク

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

■市場リスク

(価格変動リスク)

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式や組入公社債の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

(為替変動リスク)

組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。

■信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

■流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

■リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。また、運用委託先で投資リスクに対する管理体制を構築していますが、委託会社においても運用委託先の投資リスクに対する管理体制や管理状況等をモニタリングしています。

◆その他概要

お申込単位	1円以上1円単位
お申込価額	申込受付日の翌営業日の基準価額
お申込手数料	なし
ご解約価額	解約請求受付日の翌営業日の基準価額
信託財産留保額	なし
信託報酬	純資産総額の年0.63%（税抜年0.60%）
信託期間	無期限
決算日	毎年7月22日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。
設定日	2007年8月10日

当資料は、プレスリリースとして三菱UFJ信託銀行および三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、勧誘を目的に使用することはできません。当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は、信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元金および運用成果が保証されているものではありません。投資信託の運用による損益は、投資信託をご購入のお客さまに帰属します。投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。投資信託の取得のお申込みを行う場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）につきましては、販売会社にご請求ください。

商号等：

三菱UFJ信託銀行株式会社：登録金融機関 関東財務局長（登金）第33号、加入協会 日本証券業協会、(社)金融先物取引業協会

三菱UFJ投信株式会社：金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第404号、加入協会 (社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会